

令和7年度 目黒区学童保育クラブの自己チェックシート

施設名： そらのした学童保育クラブ

＜自己チェックの進め方＞

- ①各施設単位で、運営の内容について確認します。
- ②各チェック項目について育成支援の記録を見ながら振り返ってください。
- ③その際、別紙「自己チェックリスト」にある『評価の着眼点』を目安にしてください。また、併せて「放課後児童クラブ運営指針解説書」も参考にしてください。なお、各チェック項目の設問は、運営指針の指針項目に基づいています。
- ④各チェック項目を振り返った結果は、以下の要領で「結果」欄に記入してください。
例えば「○：できている（評価の着眼点の事項が全てできている）」「△：一部できている（評価の着眼点の事項が一部できている）」「×：できていない（評価の着眼点の事項がほとんどできていない）」といった三段階でドロップダウンリストから選択してください。なお、評価の対象に当てはまらない場合は、「－：該当しない（評価の対象に当てはまらない）」を選択してください。
- ⑤○、△、×すべての評価について、その結果に至った理由（なお、評価が△、×だった場合は改善に向けた対策案など）をコメント欄に必ず記入してください（100字以内）。職員間で評価結果や

I 運営指針 総則、職員の資質向上、事業の対象となる子どもの発達に対応する項目

区 分	チェック項目	結果	コ メ ン ト
1 趣 旨	○「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨を理解している。	○	子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援のために、当学童保育クラブの特徴を生かして、常により良い育成支援（ベター支援）を目指して取り組んでいる。
2 放課後児童健全育成事業の役割	○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の役割を理解している。	○	子どもの人権や一人ひとりの育ちに配慮した関りに努め、ベター支援に取り組んでいる。また、保護者や地域の学童保育等と連携をして、子どもの育ちにとってより良い育成環境づくりに取り組んでいる。
3 放課後児童クラブにおける育成支援の基本	(1)放課後児童クラブにおける育成支援	○	子どもにとって、自分をのびのびと表現しながら安心して過ごせる居場所になるように、主体的に遊びをとおして社会性や生活習慣を身に付けていけるように支援している。
	(2)保護者及び関係機関との連携	○	当学童クラブは、保護者のお迎えを原則として保護者との信頼関係を深めながら育成支援を行っている。学校や地域の児童館・学童保育クラブと連携をして地域で放課後の子どもを見守る関係づくりに取り組んでいる。
	(3)放課後児童支援員等の役割	○	当学童クラブの支援員は、研修や心理士の巡回訪問等を活用して専門性の向上に努め、自己の支援内容や関りをふりかえりつつより良い育成支援に努めている。
	(4)放課後児童クラブの社会的責任	○	子どもの意見表明権等の人権に配慮し、定期的なクラブだよりによる情報の開示や個人情報・プライバシーの保護、保護者のお迎え時の信頼関係による苦情にさらない取り組み等、社会的責任を自覚して運営に努めている。
4 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	(1)社会的責任・職場倫理	○	子どもの意見表明権等の人権に配慮し、定期的なクラブだよりによる情報の開示や個人情報・プライバシーの保護、保護者のお迎え時の信頼関係による苦情にさらない取り組み等、社会的責任を自覚して運営に努めている。
	(2)法令遵守のための組織的取組	○	研修やOJTを通じて育成支援の内容、職場環境、財政・事業運営を含めて法令遵守の必要性に組織的に取組み、職員一人ひとりの資質の向上と育成支援の充実に努めている。
5 要望及び苦情への対応	○子ども及び保護者からの要望や苦情に、迅速に対応する仕組みを整えて対応している。	○	苦情に対して、日々のお迎え時の保護者との丁寧な関り、意見箱の設置、個人面談等による苦情にさらない取り組みをしている。苦情に対して迅速な対応や苦情解決制度の仕組みがある。
6 事業内容向上への取り組み	(1)職員集団のあり方	△	日々のミーティングや月に1回の全体会議を行い、報告内容や行事、子どもの状況等の情報共有、課題について話し合う機会を持ってより良い育成支援を目指している。子どもを通して共に育ち合う職場風土を培っていきたい。
	(2)研修等	○	職場内外の様々な機会を捉えて資質の向上を図るための研修等の機会を充実させ積極的に放課後児童支援員に周知を図り参加を促している。
	(3)運営内容の評価と改善	○	令和元年度より運営主体が実施する利用者アンケートに加え自己評価を導入することで事業内容の向上や改善を図ると共に、ウェブサイトでも結果を公表し各学童保育クラブがどのように取組んでいるかを明らかにしている。
7 子どもの発達理解	○放課後児童支援員等は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、育成支援を行っている。	△	一人ひとりの発達を理解するための研修への参加や心理士による巡回訪問のスーパービジョンを受けながら、常に関りをふりかえり、より適切な支援に努めている。ケース会議の充実等で子どもへの理解をクラブ全体でより深め、共有し実践していききたい。

II 運営指針 放課後児童クラブにおける育成支援の内容、学校及び地域との関係に対応する項目

区 分	チェック項目	結果	コ メ ン ト
8 育成支援の内容	(1)育成支援の内容	○	安全安心な生活の場として、「身体の安全」「心の安定」「健康管理」等の環境を整えている。保護者や学校、地域との連携を取り、一人ひとりの子どもの発達の特徴や関係性を捉えながら、その育ちを支えている。
	(2)育成支援の留意点	△	子どもの「やってみたい」主体的な思いや自己決定を尊重して、のびのびと自分を表現しながら、ゆったりと安心して過ごせる環境や関りに留意し、育成支援に努めている。また、子どもが見通しを持って主体的に過ごし、基本的な生活習慣が身につくように援助する。
9 障害のある子どもへの対応	(1)障害のある子どもの受入れの考え方	△	インクルーシブな育成支援を意識して、発達の緩やかな子どもについては、その発達の理解を深めつつより適切な関りができるように努めている。それとともに、友だちや保護者へもその子どもについて理解してもらえるように試みている。
	(2)障害のある子どもの育成支援に当たった留意点	△	発達の緩やかな子どもが友だちに受け入れられ、生活を共にして、共に育ち合えるような配慮に努めている。障がい児についての研修や心理士のスーパービジョン、学校等との連携をしながら、さらにインクルーシブな育成支援に取り組んでいきたい。
10 特に配慮を必要とする子どもへの対応	(1)児童虐待への対応	○	望ましくない関りについて職員間で話し合い、ふりかえりをして適切な関りに努めている。虐待の通報義務を意識して、子どもの様子や保護者の子どもとの関りを見守り、早期対応ができるように慎重な対応をしている。
	(2)特別の支援を必要とする子どもへの対応	○	特に個別的な配慮が必要な子どもや家庭について、学校や公的機関と連携しながら、より適切に支援できるように努めている。
	(3)特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たった留意事項	○	個人情報やプライバシーの保護等の守秘義務を理解して、秘密保持に留意している。
11 保護者との連携	(1)保護者との連絡	○	当学童クラブは日々お迎えに保護者が来るので、対面での連絡を丁寧に行っている。安心でんしよばと（メール）、クラブだより、連絡ノート、SMS等、様々な方法で情報の共有や日々連絡できるようにしている。
	(2)保護者からの相談への対応	○	連絡ノートで出欠予定を確認している。クラブだよりで学童クラブの活動を伝えている。また、日々のお迎え時の関りを大切に、日常の様子を伝えて、信頼関係を深めている。随時、個人面談を行い、相談に応じている。
	(3)保護者及び保護者組織との連携	○	保護者が家族で参加できる行事を行い、学童保育クラブの活動への協力と交流する機会を持っている。

12	育成支援に含まれる職務内容と運営に関わる業務	(1)育成支援に含まれる職務内容	○育成支援に係る職務を実施している。	○	育成支援の目的や計画を立案し、実施して記録し、さらに、ふりかえりをしてより良い育成支援につなげている。、目的や計画、保育の様子を保護者会や定期的なクラブだよりで保護者に一斉に伝えている。日誌で活動内容や子どもの様子を日々記録している。
		(2)運営に関わる業務	○運営に関わる業務を実施している。	○	学童保育の運営に必要な主な業務として、安心安全な環境と関わり、記録、会議、保護者対応、学校や地域学童クラブとの連携、会計業務等を実施している。
13	学校との連携	(1)学校との連携	○情報交換や情報共有、学校施設の利用等、学校との連携を図っている。	○	学校公開や運動会、学習発表会等の学校行事の参加や、担任の先生との情報交換等の連携をして、子どもの生活の連続性を意識して支援している。日々、ランランひろば(校庭・体育館の開放)を活用している。子どもや家庭の事情について、学校とより情報共有して、子どもの育成支援や家庭支援につなげていきたい。
		(2)学校との連携におけるプライバシーの保護	○学校との連携にあたって、個人情報や秘密保持について予め取り決めている。	○	学校との情報の共有について、個人情報の保護や秘密の保持について、年度初めに「個人情報同意書」で、取り決めをしている。
14	保育所、幼稚園等との連携		○情報交換や情報共有等、保育所・幼稚園等との連携を図っている。	△	当学童保育クラブは、保育所を併設しているために法人が運営している保育所と連携を取っている。それ以外の保育所や幼稚園とは連携が取れていない現状がある。
15	地域、関係機関との連携		○地域組織や子どもに関わる関係機関等との連携を図っている。	△	放課後の子どもの居場所づくりとして、地域の児童館や学童保育クラブの行事に参加協力するなどの連携が活発である。地域の自治会(住区・町会)とつながりを持ち、子どもがよりよく育つ環境づくりをしていきたい。
16	学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	(1)学校施設を活用して実施する放課後児童クラブ	○学校施設を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	○	ランランひろば(校庭・体育館開放)には、必ず職員が同行し、約束を守り、安全安心に利用できるようにしている。
		(2)児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	○児童館を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	○	児童館の利用には、職員が必ず同行し、約束を守り、安全安心に利用できるようにしている。児童館の主催する行事にもできる限り参加している。

Ⅲ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
17	衛生管理及び安全対策	(1)衛生管理	○日常の衛生管理を適切に行うとともに、感染症の発生時における対応方針を予め定めている。	○	日々の手洗い、消毒による衛生管理に努めて感染症を予防する。感染症の発生については、保護者への情報発信による早期対応や流行が確認された場合は目黒区へ報告をして対応する。
		(2)事故やケガの防止と対応	○事故やケガを防止するための対策を講じるとともに、事故やケガの発生時における対応方針を予め定めている。	○	安全な環境を整え、子どもの状況に応じて危険を察知し、対応する力を高めて、ケガの予防に努めている。ケガや食物アレルギー等のリスクについて、応急処置や危機対応を研修して学んでいる。また、事故報告書やリスクマッピングメントで再発防止に努めている。
		(3)防災及び防犯対策	○防災や防犯に備えた対策・訓練等を日ごろから行っており、災害等の発生時における対応方針を予め定めている。	○	毎月、避難訓練や不審者侵入訓練を併設している保育園と行っている。今年度は、災害コンサルタントの協力で、災害時の「職員の初期行動マニュアル」を作成して、災害時の対応に施設全体で取り組んでいる。
		(4)来所及び帰宅時の安全確保	○関係者と連携して、来所及び帰宅時の子どもの安全を確保している。	○	子どもの登所降所の状況について、必要に応じて保護者や学校・行政と連絡を取って安全を確保している。降所については、原則、保護者のお迎えになっている。

Ⅳ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策、放課後児童クラブの運営に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
18	施設及び設備	(1)施設	○放課後児童クラブとして求められる機能を備えた施設(専用区画)を有している。	○	放課後児童クラブとして定められている施設基準は整えられている。子どもがくつろげる家庭的な雰囲気空間になっている。保育園と併設していることや、小学校、児童館が近い立地条件を活かした保育が可能になっている。
		(2)設備、備品等	○放課後児童クラブとして求められる機能を満たすための設備や備品等を有している。	○	生活に必要な設備・備品や、子どもが主体的・意欲的に遊べる備品が整っている。
19	職員体制	(1)職員配置	○支援の単位ごとに2人以上の放課後児童支援員等を置いている。	○	子どもが安全に遊びを選択して活動できる支援員の配置を整えている。また、子どもの一人ひとりの気持ちに寄り添って丁寧な関りができるような職員体制に努めている。
		(2)育成支援の実施	○支援の単位ごとに育成支援を行っている。	○	支援の単位を意識して、日々職員配置や体制を整えている。
		(3)放課後児童支援員の雇用形態	○放課後児童支援員を長期的に安定した形態で雇用している。	○	放課後児童支援員が長期にわたって安心して就業できるよう、処遇改善や労働環境の整備に努めている。
		(4)勤務時間	○放課後児童支援員等の勤務時間を、開所時間の前後に必要な時間を前提として設定している。	○	子どもの受け入れ準備、打合せ、育成支援の日誌作成、清掃、片付け、配布物等の作成、事務処理等を含め開所時間の前後に必要なに応じて準備時間を設けるよう努めている。
20	子ども集団の規模(支援の単位)		○適切な子ども数の規模の範囲(おおむね40人以下)で運営している。	○	40名定員で、一人ひとりの子どもの気持ちを感じながら、その育ちに応じて、丁寧な育成支援に努めている。
21	開所時間及び開所日		○開所時間及び開所日を適切に設定している。	○	開所時間は8:00～19:00とし、開所日は年間290日程度となっている。
22	利用開始等に関わる留意事項		○利用開始や退所に関わる留意事項を理解し、適切に対応している。	○	区として作成した利用案内を窓口、各施設等で配布し、併せて区のウェブサイトでも公開している。また、利用開始にあたっては、各施設ごとに説明会を開催し、入所案内を配布し、利用及び退所時の説明を行っている。
23	運営主体	(1)運営主体の要件	○安定した経営基盤と運営体制を有し、子どもの健全育成や地域の実情についての理解を十分に有する主体が、放課後児童クラブを運営している。	○	放課後児童クラブの運営は、育成支援の継続性という観点から、子どもの福祉について理解し、安定した経営基盤と運営体制を有する主体が安定的・継続的に担っている。また、地域の実情についても理解をしている。
		(2)運営上の留意事項	○放課後児童クラブの運営主体は、設備運営基準に定められた運営上の留意事項を理解し、運営している。	○	放課後児童クラブの運営主体の留意点6項目について理解し運営に努めている。
24	労働環境整備		○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の労働環境を適切に整備している。	○	健康で働きやすい職場環境と労働時間に留意している。残業時間が少なく、適切な職員配置でゆとりをもった労働環境を整えている。年に1度健康診断を行って職員の健康管理に努めている。労災保険、厚生保険、雇用保険に加入している。
25	適正な会計管理及び情報公開	(1)会計管理	○放課後児童クラブの運営主体は、適正な会計管理を行っている。	○	放課後児童クラブの公益性に照らし、保育料徴収の手続きや管理及び執行を適正に行い、執行状況報告について監査等を行い適正な会計管理に努めている。
		(2)情報公開	○放課後児童クラブの運営主体は、会計処理や運営状況について情報公開している。	○	事業内容や財務及び収支の状況について情報公開し、保護者や地域社会に対する説明責任に努めている。